みちの会だより

第１２号
１９９６年１２月３日発行
地域開発みちの会

第１０回 知多・名古屋女性フォーラム
「ふれ合って みんなで
生かす 女性の力」

平成８年１０月２６日（土）
愛知県女性総合センター
参加者数　１１１名

地域開発みちの会１０年のあゆみ

発足１０年を迎えたみちの会が、新たな出発を目指し、毎年掲げたテーマに如何に取り組んできたか、その足跡をビデオシアターとしてまとめました。

［各年度テーマ］

昭和６２年度	（１９８７）	ふれ合ってみんなで活かす女性の力 交流と連帯
昭和６３年度	（１９８８）	地域問題解決のために ほんねで語ろう　女性の生き方
平成元年度	（１９８９）	高齢者在宅福祉 みんなで考えよう明日の高齢者在宅福祉
平成２年度	（１９９０）	拓こう豊かな高齢化社会
平成３年度	（１９９１）	子どもたちにどんな社会をのこせるか
平成４年度	（１９９２）	子どもたちにどんな社会をのこせるかパートⅡ
平成５年度	（１９９３）	医療を学ぶ
平成６年度	（１９９４）	新しい家族への創造
平成７年度	（１９９５）	みつめよう女と男の生き方
平成８年度	（１９９６）	ふれ合って　みんなで生かす女性の力

昭和６２年度　（１９８７）

７月３日　県自治センターにおいて設立総会

地域開発「みちの会」の誕生です。地域婦人問題開発研究会の１期・２期生終了生２５名で発足しました。初年度は地域と連携を深めて、共に行動できるようにの願いをこめテーマを、「ふれ合って、みんなで活かす女性の力」としました。

９月２４日　県議会傍聴と県政についての研修を行ないました。議会の仕組みを県議会事務局の竹内氏より説明を受けました。ほとんどの人が初めての議会傍聴で、県政が身近に感じられたとの感想や、女性の声を反映させるためにも、もう少し女性議員がいたほうが良いなどの声も聞かれました。

１０月１５日　東浦町にある身体障害者療護施設「ひかりのさと」と「のぞみの家」を訪ねました。基本理念として、住人さんも健常者と同じ人間、ここは自立の場であり障害の程度に応じて、その人なりに精一杯生きている。人間として共に生きていく、みんな同じ立場になって考えている、という素晴らしい施設でした。ここに住む障害者をみんなが住人さんと呼び、一人一人を大切にして生活している様子に感銘を受けました。次に県立特別養護老人ホーム大府寮を見学し、お年寄りの様子を寮長より伺いました。

１１月２８日　半田市に於て知多地域の女性議員と語る会を開催しました。共に、より良き地域にするために語り合うことと、又みちの会の活動にとっても大切なことであると考えて呼びかけました。多忙な議員の方々も知多地域１０名中８名が出席して下さり、今後も手を携え合おうと確認した有意義な会であったと思います。

６３年２月２７日　東浦町に於て、第１回知多・名古屋女性フォーラムを開催しました。発足間もない会でしたが、様々な団体や、グループとの交流を必要とし地域に横たわる女性問題を考えていこうとしたものです。テーマは「交流と連帯」としました。今考えてみますと、何と大きなテーマであったかと気恥ずかしい思いですが、その当時の意気ごみが伝わってくるような気がします。フォーラムは、男性を含めた約５００人が会場を埋め尽くし、各グループ・団体など参加者相互が交流し連携の深まりを感じました。

フォーラム

１部　パネルディスカッション、東浦町長はじめ５名のパネリスト・福田先生のコーディネートによる意見交換をしました。

２部　交流パーティと音楽の夕べを行ない、交流の輪が拡がりました。

自分たちの手で立案から企画・運営までたった２５名の会員で力を出し切ったこの日、疲労感と一緒に会員それぞれが今後の自信にもつながったように思います。約１０ケ月、無我夢中の毎日でした。大勢の人と出会い、学びあい、高め合う場がもてた事が幸せでした。

昭和６３年度　（１９８８）

４月１６日　第２回総会を県自治センターで開催しました。２年目のテーマは身近な地域のことを知ろうと「地域問題解決のために」としました。

６月３日　愛知健康の森構想について県健康の森推進室、鈴沖課長補佐からお話を伺いました。大府市と東浦町にまたがり、１００ヘクタールの規模で建設が予定されています。病人への対策は、それなりに進められていますが、９０％以上の健康な人のための対策が必要です。この観点からの健康の森構想であり６２年６月基本構想ができ、現在基本計画を検討中との事でした。

６月２２日　知多地域各種団体との交流会を東海市で開催致しました。女性の声を生かした町づくりのために、様々な女性団体が共に手を取りあいましょうと、東海市・常滑市・知多市を主とした各団体で子どもの事、老後の事などを話し合いました。

女性議員と語る会

７月１６日　知多市に於て、２回目の「女性議員と語る会」を開催しました。今回は一般の参加者も含め、７０人で育児・教育介護など現状を語り合いました。女性が生き生きと地域活動をするために、どのような事が必要か等、熱心に話し合いました。

８月２５日　健康の森予定地を見学し、大府市久野厚生部長より、県の施設のほかに、国の長寿科学センターを誘致したい、ここで目指すものは高次元な医療であるなど、未来像を伺いました。現在の健康の森はすっかり様変わりして建物などが続々と建設され、国の長寿医療センターは稼働しております。

９月１３日～１４日　９月１０日に開館したばかりの、横浜女性フォーラムと神奈川県婦人総合センターの見学研修をしました。横浜女性フォーラムでは、開館セレモニーの真っ最中で、外国人や男性を含む大勢の参加者でごった返した状態でした。丁度、樋口恵子氏の講演に間に合い、聞くことができました。「一人一人が意識を変え、人生８０年型の行き方を自分自身で育て、今をしっかり見つめてスタートラインを引き直そう」と話されました。館内は様々なイベントが行われており、有馬真喜子館長ともお話することができました。

１２月３日　半田市に於て、第２回フォーラムを開催しました。学習会を何度も重ね、自分たちの生き方をトコトン語り合おうということでテーマは「ほんねで語ろう女性の生き方」としました。子育て中の女性の生き方、子育て後の女性の生き方を、４つの分科会で話し合い、午後の全体会で報告し顧問の福田先生、地域福祉を考える会の野村文枝氏に助言をお願いしました。その後講演に移り中日新聞記者松永緑氏から「女性の生きがい、私の取材ノートから」を伺いました。

みちの会の活動２年目の今年は、昨年の経験を踏まえ会員一人一人が自主的に行動し、たくさんの学習と行動を行うことができました。いかに生き、いかに老いるかは、永遠のテーマであろうと思いました。

平成元年度　（１９８８）

４月１１日総会

世界にも例を見ないスピードで日本の高齢化が進んでいます。介護の問題は女性の生き方を大きく左右する問題であるとの見方から、年間テーマを「高齢者在宅福祉」と決めました。

在宅福祉の現状と問題点を把握するために、名古屋市と知多五市五町で「高齢者在宅福祉実施状況」を調査しました。みちの会としては、初めての調査活動でしたが、住民と行政双方の問題点が浮かび上がるとともに、窓口での聞き取り体験からも貴重な収穫があり、その後の学習に大きなよりどころとなりました。

７月２２日　恒例の「議員と語る会」には、この年、初めて男性議員を迎えました。先の調査結果をふまえて、血の通った福祉の実現をめぐり、活発な意見交換がありました。「市民の要望が行政を変える」という議員の発言に、意を強くしたものです。

９月２０日　シルバーケアマンション「ミソノピア」と、特別養護老人施設「高坂苑」を見学しました。ミソノピアの２ＬＤＫの個室は安全面で細かい配慮がされ、モニターテレビやセンサーでいち早く異常を察知できます。「高坂苑」は、入所者の人格尊重を第一に、解放的で伸びやかな雰囲気です。娯楽室や喫茶室へは、市民が自由に出入りでき、交流できるように工夫されていました。

１０月４日　半田市福祉課の赤星氏に行政の側から寝たきり老人の実態と対策について伺いました。

在宅福祉の３本柱

・老人の実態を知ること

・行政がその実態にどう対応するか

・老人への援助の仕方

について具体的に説明されました。それらの話の中で、「家を離れたくないが、あんたに行けといわれれば仕方がない。逢いに来てね。」と訴えたおばあさんと赤星氏の信頼関係に感動しました。

１１月２９日　第３回フォーラム「みんなで考えよう明日の高齢者在宅福祉」は、常滑市で開催しました。午前は、日本福祉大学、児島美都子教授の講演で「在宅ケアと地域づくり」。

午後は六つのグループに分かれて熱心な討議の後、福田先生を中心に分科会報告をしました。この年は、「在宅福祉元年」とも言われ、社会的に問題意識が高まっていました。未経験の超高齢化社会を目前にして例年にも増して参加者の熱意を感じました。また、２０名の福祉大学生の参加があり、各分科会で若者たちの爽やかな発言が好評でした。

分科会

老いは誰にも平等に訪れます。誰かに頼らなければならないその時のために、みんなで支えあうネットワーク作りを進めて行きたいと思いました。みちの会の「在宅福祉元年」でした。

平成２年度　（１９９０）

前年度に引き続き老人福祉について取り組みました。

７月７日　武豊中央公民館に於て「議員と語る会」を行い、議員１６名、会員３６名で「地域福祉の充実」をテーマに話し合いました。前年度に調査した各市町の在宅福祉の現状についての資料を基に、福祉サービスがどのように進展していったか、議員さんたちに伺いました。そして福祉の窓口の一本化とか、子供のころから福祉の心を養うことの大切さなどの意見が交わされ、少しでも不安のない老後が迎えられるよう福祉の充実に尽力いただきたいとお願いしました。

１１月２０日　第４回フォーラムは「拓こう豊かな高齢化社会」と題して愛知県美浜少年自然の家で行いました。

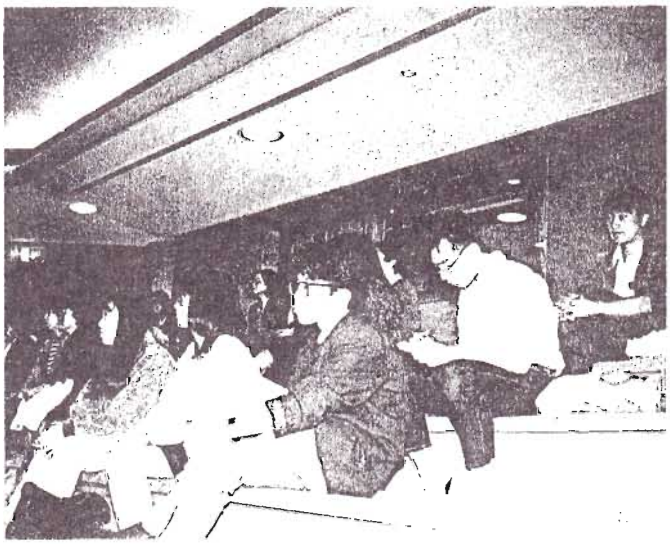
午前は、当時話題の羽田澄子監督、岩波映画「痴呆性老人の世界」を上映し約４３０名の人達が鑑賞しました。午後からは、五つの分科会に分かれ「健やかに老いる為に」を主題に、映画の感想、介護体験、高齢化社会のあり方、福祉サービスのＰＲ、老人介護に男性を巻き込むことが、必要。趣味を持つことなど、一般の方、民生委員、行政関係者、日本福祉大の学生さんと、活発に意見交換がされました。

分科会

全体会では、まずストレッチ体操で体をほぐし、５人の人が各分科会のまとめを発表しました。何ごとも待っているだけでは解消されません。できることからアクションを起こしていこうと思いました。

１１月３０日～１２月１日　見学研修

台風の為に延期になっていた施設見学研修は、また台風がやって来るという気がかりの中、静岡県へと足を向けました。高齢者コミニュティ「浜松ゆうゆうの里」は、自立生活型を目指し、寝たきりになっても無料で終身介護が受けられる有料老人ホームでした。それから「聖隷三方ケ原病院」内にあるホスピス病棟を見学しました。外はたたきつけるような激しい風雨、礼拝堂で説明されるチャプレンは危篤の患者を抱えておられました。平均３ケ月という短い余命を精一杯送った人々の「生きざま」のスライドを見ながらお話を伺い、とても深い感銘を受けました。ホテルでの夕食後は、楽しいひとときとなり、親睦をはかることができました。新年には、羽田澄子監督の「安心して老いるために」の映画を見ました。また半田市の青年の家で福祉に関する１６ミリを見るなど、映画で学習した年でもありました。


学生さんの参加

平成３年度　（１９９１）

高齢化問題を取り上げてきましたが、最近の少子化が高齢化率を高めている要因となっています。２１世紀を担う子どもたちのために、安心して子育てのできる環境を整えるために「子どもたちにどんな社会を残せるか」をテーマとしました。

５月～６月にかけて

若い母親たちと交流会を持ちました。約１か月で１２会場、２５９名が参加しました。若い母親への呼びかけや、会場の設営、話し合いの進め方など地元会員が力を合わせて行いました。初めてのことでもあり、準備不足や、テーマの絞り込みの必要性を痛感しました。人生の先輩でもある私たちが、人知れず子育てで悩んでいる若い母親たちの相談相手になることができたらと思いました。

分科会

９月２６日　東海市勤労センターに於て第５回フォーラムを行いました。先の交流会での問題点をテーマとしました。

一部は１２分科会に分けた交流会としました。参加してくれた若いお母さん方と地域社会での子育てについて活発な話し合いが進みました。たくさん出された意見の中には、日本の子どもたちは、老人を汚いと見る、アジアの留学生は、初対面の老人に手を貸した、父親も家庭の中に入ってもらい子育ては二人で、学童だけ週休二日制になっても土日に世話をする人がいないなどがありました。

二部では、１２分科会の意見を発表しながら、福田先生のコーディネイトでパネルディスカッションを行いました。パネラーからの提言として、子どもたちに残してやりたいものは、

親がなし遂げたことを誇れること。

増えている働く母親のために地域でサポートするシステム作り。

子供たち自身の工夫から生きていける力をつけること。

また、今大人がやるべきことは、

年齢相応の絶対必要な体験をきちんとやらせること、触角、臭覚、味覚は自然とのかかわりから育つもの、異年齢間の遊びの中から生まれる社会性の訓練。

子どもをやる気にさせること。（これで８割方子育ては成功）等。いただきました。

福田先生には、今日提起された問題を地域に持ち帰って、更に話し合いの輪を拡げていってほしいと結んでいただき、学校五日制の問題を議員と語る会のテーマへと続けました。

１１月３０日　石ケ瀬会館にて「議員と語る会」を開きました。気持ちがリラクッスできて、和やかに話し合いを進めることができればとの思いから、開会前に手作りの昼食会を行いました。この年の特徴かと思います。

１２月３日～４日　「神戸総合福祉ゾーン・しあわせの村」１泊２日の見学研修を行いました。今年最後のイベント、揺りかごから墓場までの言葉通り、神戸が眼下に見下ろせる絶景の場所に、たくさんの施設がありました。愛知健康の森の建設が進む中、この学習が生かせることを願いました。ジャングル温泉で旅の疲れを癒し、翌日の行程に備えました。震災前の神戸が思い出されるのは私だけでしょうか。

平成４年度　（１９９２）

武豊町を中心に前年度に引き続きテーマを「子どもたちにどんな社会を残せるか、パートⅡ」として活動しました。

６月から７月にかけて各市町ごとに、アンケート調査をする所、交流会を開く所と、それぞれフォーラムにむけて学習会を持ちました。内容は、以下のとおりです。

・名古屋市　教育における人権と差別
　　子どもの権利条約
　　医療の現場での患者の権利
　　（暮らしの中の人権）
・半田市　子育てについて
・常滑市　アンケート調査ー若者の見た大人社会
・東海市　子育てについて
・知多市　家庭環境、地球環境
・大府市　子育てグループができた経緯と問題点及び今後の課題
・阿久比町　子どもたちにどんな社会を残せるか
・東浦町　教育問題、環境問題
・美浜町　子育て、子育てと仕事、保育所・母の会との交流
・南知多町　食事、仕事、学校五日制について
・武豊町　道徳教育、環境問題、学校五日制について

６月１８日　施設見学は「愛知県緑化センター」と「愛知たいようの杜」。緑化センターでは、昼食時に全体会を持ちましたので、食事と記念撮影のみで、園内の散歩等できなくて残念でした。

愛知たいようの杜は愛知郡長久手町にある特別養護老人ホームで、家族や地域の人、又併設されている幼稚園の園児なども自由に出入りできる、解放的な明るい施設でした。

１０月２７日　武豊中央公民館で第６回フォーラムを開催しました。テーマは「子どもたちにどんな社会を残せるかパートⅡ」です。

基調講演は、岡崎女子短期大学教授　林陽子氏により、「子供たちにとって家庭とは何か」ーデンマークの子育てネットワークに学んだこと－という演題で、今家庭、家族はどうなっているか、デンマークでの見聞を交えてお話を伺いました。午後は、知多の各市町ごとに学習した成果を、名古屋の会員は、環境、教育、人権を３場面のコントで発表しました。

パネルディスカッションでは、福田先生をコーディネイターに各市町を代表する５人のパネラーにより、アンケートの調査のまとめ、交流会で話し合われたことなどの報告があり、それらを基に討議されました。

会場の参加者との質疑応答では、体罰や三世代同居など、子育ての環境について、活発に意見交換されました。

１１月２１日　常滑市鬼崎公民館「議員と語る会」が催されました。参加者は会員も含めて５４名で、今年度のテーマを基に、子供の人権、働きながらの子育て、母親自身の教育等について話し合いました。

平成５年度　（１９９３）

４月３日　総会の後、今年度のテーマを「医療を学ぶ」としました。

私たちは今、過剰医療や患者の不本意な医療など、さまざまな問題を身近に考える必要を感じていたからです。

６月中に学習として、ベストセラーになっていた山崎章郎著の「病院で死ぬということ」を各自読み、それを基にしたという映画「大病人」を鑑賞しました。

９月の学習会は、インフォームドコンセントとホスピスケアについて学習しました。講師には、長年医療ボランティアに携わってこられた、永井照代氏に具体例を交えて伺いました。ホスピスケアを望む患者が多いにもかかわらず、現在ホスピス病棟のある病院は、全国で２２カ所、そのうち厚生省認可の病院は９カ所だけでした。そこでホスピスケアのある病院を見学しようと、

１０月の見学研修は、三重県の久居市にある藤田保健衛生大学病院七栗サナトリウムに行きました。「医療は社会で支えなければならない」「命を預けられた医療を暖かいものにしたい」と具体的に熱っぽく語られた院長先生の言葉が印象に残っています。

時を同じくして、社会では、インフォームドコンセントの裁判があり、日本では初めてとのことでマスコミが大きく報道しました。これは名古屋のがんセンターで卵巣ガンに治療薬を投与されたとして、亡くなった患者の家族が訴えたものです。この裁判は現在も続いています。

１２月　第７回フォーラム「医療を学ぶ」インフォームドコンセントについての講演会を知多市で開催しました。講師の慶応大学病院の医師、近藤誠氏は、インフォームドコンセントを尽くしたということは、病名を知らせた上に、どういう治療法があるか、又、治療しない方が良いかもしれないということまで知らせることである。大切なことは、患者自身が医療に参加して治療を決めて行く、選んで行くという自己決定権を自覚することである、と同時に、病気に対する概念を変えていかなくてはならないなどと、事例を上げて熱心に話されました。講演終了後は、会場の沢山の方たちと、講師を囲んで交流会を持ちました。私たちが、今、如何に死ぬか、ということを考える時、それは如何に生きるか、ということにつながると思うのです。医療問題について、個人では決してできない聞き取りや講演によって得たことを少しでも地域に還元できたらと思いました。

講演会

平成６年度　（１９９４）

平成６年度の活動は大府市を中心に行いました。テーマは国際家族年を踏まえ「新しい家族への創造」としました。

この年の８月には、国際エイズ会議が日本で開催され、マスコミに多くの情報が流れました。それに先立ち６月２５日大府市石ケ瀬会館の学習会では、高校講師宮崎幸子先生から、エイズについての講演を開きましたが、私たちには、まだ、人ごとと関心も薄かったような時期で、先生からは、基礎的なことを伺いました。

滋賀県立婦人センター

７月１６日　夫婦別姓選択制についての学習会をしました。午前中は、半田市の新見南吉記念館を見学。午後から半田市福祉文化会館で、二宮純子弁護士から夫婦別姓選択制の民法改正要綱試案の解説と、評価についてお話をいただきました。この民法改正案は、平成８年現在国会への提出は見送られております。

９月１７日　第８回フォーラム開催。水不足の続く中、待望の雨が降った日でしたが、多くの方々に参加頂きました。講演は中学校講師、滝井なみき先生の「性ってなあに」の演題で性教育が、人の生と死を見つめ、人間愛に結びつくことを話して頂きました。託児を初めて試みましたし、会員による手話通訳の紹介は好評を得ました。

１１月１０日　見学研修会は、滋賀県立婦人センターを訪問しました。施設ボランティアグループ「ひまわり」との交流会を行いました。愛知県の女性総合センターの開館を心待ちにしました。

講演会

最後にみちの会だよりの発行です。会員相互のタイムリーな情報交換の場として、現在９号まで発行されています。

平成６年度は、自然の力をいやというほど思い知らされた年でした。振り返ってみますと、一つ一つの取組が、社会を見据えるきっかけとなったと思いますし、行動することが何より大切だと思いました。

エイズとは？

エイズ(AIDS)とは、Acquired Immunodeficienc
症候群)のことで、その病原体はHIV(Human Immunode
ウイルス=エイズウイルス)です。HIVに感染すると、体内の免
体の抵抗力が低下します。そのため種々の病原体はもちろんのこと、健康な人にとって害のない、自然環境に普通に存在している細菌・ウイルス・カビなどが体内で増殖するのを防ぎきれなくなってしまいます。その結果、重い肺炎にかかったり、舌や食道にカビがはえるなどの様々な病気に侵されます。

平成７年度　（１９９５）

平成７年度のテーマは「見つめよう女と男の生き方」です。戦後５０年、そして９月には第４回世界女性会議が北京で、その記念の尾張地域フォーラムが春日井市でと、とても多彩な充実した年でした。その中で遅々として進まない男女共同参画社会の実現に向けて、生き方を見直したい、前進したい、そのための学習を、という想いでこのテーマが選ばれました。

６月３０日　県議会議員の近藤良三氏を講師に、半田市福祉文化会館で、「男の生き方」についての学習会。近藤氏の今までの生きざま、体験から「男女が一緒になって語り合う過程が男女平等社会を作って行くことになる」とのお話は、私たち女性を力づけて下さるものでした。

７月２４日は阿久比町オアシスセンターで弁護士の池田桂子氏を迎えて、「女性の生き方」の学習会。多忙な弁護士と家事育児を両立させる、その苦労話や裏話など、また弁護士として関わられた事件のこと、関わっておられる市民運動のことなど、とても密度の濃い学習会でした。

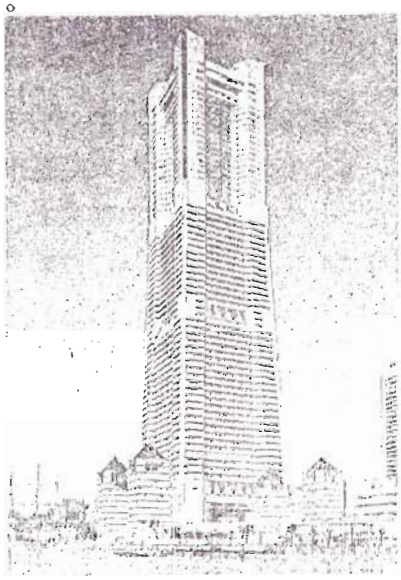
９月３０日　阿久比町勤労福祉センター（エスペランス丸山）で第９回フォーラムを開催しました。

フリーアナウンサーの川島美恵子氏と中日新聞論説委員の前田弘司氏の対談という形で行われました。共に昭和１１年生まれのお二人で、川島氏が現在の地位を確保されるまでの苦難の過程を、また、前田氏は男社会の中で女性の変わり方を外から見てのお話を皮切りに、中国やイスラム教国での男女差別や、介護の問題について話されました。

特にこの２・３年の女子大生の就職難等、女性の社会進出は、法律は整備されても現実は、経済の動向などにより後戻りしたり、停滞したりと非常に嘆かわしい状態です。私たち女性自身がもっと意識し、連帯して地位の向上を図らなければとの想いを強くしました。

１０月２７日　阿久比町オアシスセンターにて全体会のあと北京会議に参加した、永山・山口両会員よりスライドを使って報告がありました。

１１月２９日－３０日　一泊二日の行程で横浜、東京へ見学研修旅行を実施しました。


日本一のノッポビル、横浜ランドマークタワー。

第１日は横浜市婦人会館でグループ“ゆう”との交流そしてフォーラム横浜の訪問の予定でしたが、東名高速で交通トラブルに巻き込まれ、到着時間が大幅に遅れ、“ゆう”や会館の皆さんに大変ご迷惑をかけてしまいました。ランドマータワーからの夜景のすばらしさ、夕食後、ホテルロビーでの雑談会など素敵な思い出もいっぱいできました。第２日は東京見物、浜離宮、水上バス、浅草寺、駒形どぜう、と楽しいバスの旅でした。

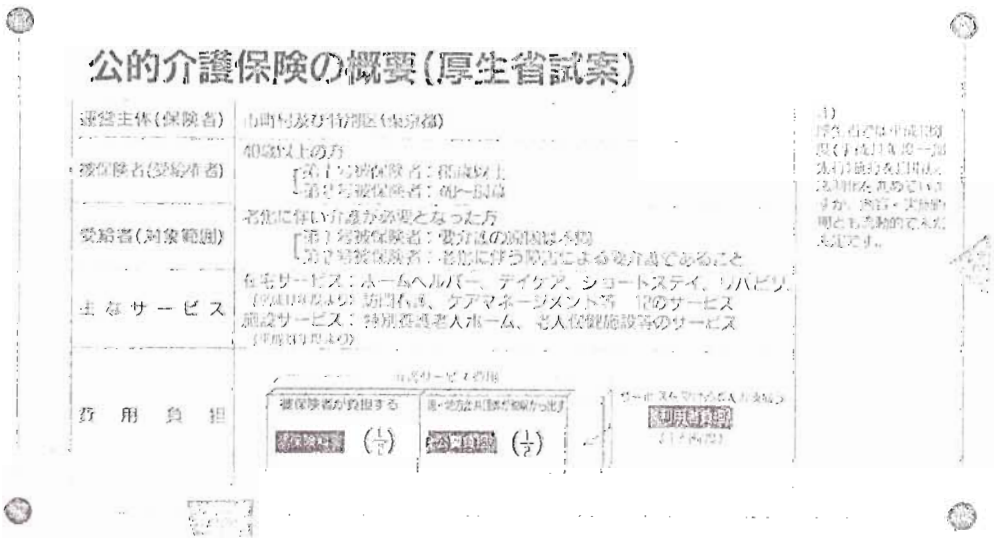
平成８年度　（１９９６）

平成８年度はみちの会創立１０周年になります。

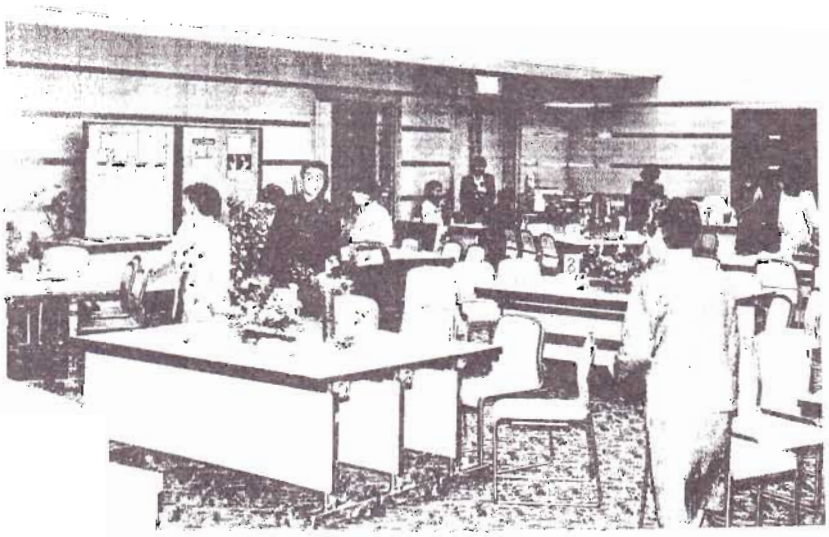
テーマは、１０年のまとめとして、通年テーマ「ふれ合って　みんなで生かす　女性の力」としました。

６月５日　地域実践活動フォーラムが、初めて開催されました。愛知県女性総合センター（ウイルあいち）の開館記念行事として、愛知県女性地域実践活動交流協議会のメンバーがウイルホールに集い、「躍動への確かな前進ー手と手をつないでー」のテーマのもとパネルディスカッションを行いました。八木登代子さんがコーディネイター、油田淑子さんがパネリストとして登場しました。同じ目的をもって活動する会員が、一堂に会し、仲間としての意識が高まりました。それぞれの会の特色が良く現れこれからの活動の指針とすることができました。フロアーからも、みちの会に質疑が多数ありました。

７月１１日　公的介護保険についての学習会を持ちました。講師には、県民生部高齢化対策室主任専門員　西川洋二氏をお願いし、行政の立場からの説明をして戴きました。また現場の立場から野並デイサービスセンター施設長　加藤清文氏に問題点をお話し戴きました。皆、いずれは保険サービスを受ける身、熱心に聞きいっていました。



９月５日には、フォーラムに向けての事前学習として、「私にとっての１０年」のテーマで、発足以来顧問をお願いしています福田先生と、リレートークをしました。１期生・２期生はみちの会開設当時の苦心談、３、４、５、期生へのつながり、私たちの成長を見守って下さっている福田先生の想い等、時間の経つのを忘れて、話し合いました。



フォーラムの準備風景

みちの会１０周年を迎えて

総選挙が終わって

１期生　　山守　恵子

１期生

去る１０月２０日の総選挙の日、投票事務の手伝いとして、投じられた一票一票の重みを実感した。

その夜、テレビでは悲喜こもごもの表情が映し出された。喜び一杯でだるまに目を入れる当選者に、不自由な足で机にすがりながら投票していった人々や、初めての選挙に戸惑いながら入って来た若者たちの一票。それぞれの一票の重みを知ってほしい。年金問題ひとつとっても恩恵に浴する親たちの世代、特に負担感の増した私たちの世代、このままだと息子たちの時代には給料の半分が、税や保険、年金で引かれてしまう。「やっていられないよ。」となる。地域によって、あるいは立場によってあちら立てればで難しい。政治という大変エネルギーのいる場を選んだ人達に、これからの時代を担う若者たちが、やる気をなくさないようしっかりと国の舵取りをしてもらわねばならない。また、若者たちも、棄権することなく、一票の権利を大切にしてほしいと呼びかけたい。

あの「お願いします」の連呼のエネルギーを国政の場で発揮してもらえることを信じたい。

みちの会とわたし

２期生　　片山　澄子

この１０年間、女性問題は大きくクローズアップされた。先日、男女雇用機会均等法改正のため、国民からの意見が２万余通寄せられたという。しかも、男性から４割の声があったそうである。この関心の深さは、どうであろう。私の住む半田市で、女性の登用率は６％～１５％に増加した。ごみ減量委員会は、実に女性が７３％を占めている。女性議員は１人から４人に。

思えば１０年前、みちの会が発足した時、私たちの暗中模索がどこまで続くかという懸念

があった。第２回のフォーラムを半田市で開いた時、行政の女性職員が心から応援してくれたこと、仲間の青木さん、間瀬さんが、骨身を惜しまず働いてくれたこと、それらを心の支えとして、今日まで歩いて来たと思う。

２期生

半田市女性活動連絡協議会（レディス半田）を結成したのが５年前。無我夢中でつっ走っていた私が、突然病を得、入院手術、姑の骨折、自分の再入院、主人の入院と多事多難の中で、自分を見失いそうな２年を通過した。

昨年、会に足を踏み入れて驚いた。それは、会員の一人一人が見事に成長し、地歩を築いていること。若いパワーが開花して、楽しく活動していることである。何と言っても女性議員、教育委員、地域でなくてはならない人に成長している仲間に囲まれて居る幸せを感じた。

表街道には、道がついたといっていい。裏街道は、どうであろうか。ここに道がつけられるようになったら・・・・。それは、夢であろうか。

☆☆☆ 私とみちの会 ☆☆☆

３期生　今野　福代

みちの会の１０周年記念フォーラムがウイルあいちで開催されました。

幸い私は、第１回東浦で開かれたフォーラムから今回のフォーラムまで、参加ができましたことを本当に嬉しく思っています。

私はここ数年、都合良い時の参加だけではなかったかと反省しています。

私にとってのみちの会は、経験豊かな人達の集まりですので、あらゆる情報をいち早く得る場であり、情報交換の場だと思っています。輝いている皆さんを見る度に、私も頑張らなくてはいけないと自分自身を励ましています。

地域婦人問題開発研究会・三期生間の交流は、現在も続いており、食事会、旅行など楽しみと共に学習会だと思い参加しています。

みちの会は、会員皆さんで育て、そして人間関係を大切にしていってほしい、と言われた福田先生の言葉を思い出しました。

これからは、みちの会で得た情報を活用して、地域の方たちとのコミニュケーションを取っていくことが大切な役割だと思っています。

私とみちの会

4期生　　山本　安

3 期 生

4 期 生

昭和６３年婦人問題開発研究生に町（ちょう）から推薦された時、私にこの役を全うすることができるのか不安で頭が真っ白になりました。それは、今まで会社やその他の勤めなどしたことのない一井の中の蛙一が町を代表して、誰一人知らない者が、他の市町の方々と共に活動できるか心配でした。。引っ込み思案の私は、事業概要の説明や、講話後の分科会での話し合い、記録など、まったく苦手としていたからです。そのうち、お友達もでき、少しずつ内容も分かるようになり、慣れることによって、安堵できるようになりました。そして、みちの会の会員となりました。

先輩や同期の方は、自ら立派に地域で活躍され、緒事業を積極的に努められるのに、私は、他人に言われて、いやいや努めるのでは、天と地との差があると痛感しました。でも、みちの会のお陰ですばらしい体験もし、良い勉強になりました。人間的にも成長したと思います。

この会で「議員と語る会」がありましたが、南知多町は、欠席が多く淋しい思いをしていましたので、一度地元で「議員と語る会」を開催したいと思って計画した所、選挙後の真近な事もあって断られました。それでは、役場の各課の課長さんとのパネルディスカッションを予定した所、敬遠されて、これも失敗に終わりました。その後２・３日して助役さんから電話をいただき、平成６年度は駄目だったが、あきらめず機会を見て申し出て下さい。私も応援するとの言葉をいただきましたので、意を強くして実施したいと思っています。

みちの会も欠席ばかりしていると、自分だけ取り残されていくよう感じます。しかし、みちの会で得たものを活かして地域で頑張ります。

私と「みちの会」

5期生　佐藤　定子

みちの会１０周年おめでとうございます。

５期生として入会いたしましてから、もう４年目になります。

家の事情や、仕事の関係もあり、欠席が多く、各方面で立派に活躍されている方々に、ただただ圧倒され、いまだに気後れを感じております。

しかし、いろいろな人との出会いがあり、また勉強もさせていただきました。

５期生

特に、永井照代さんのお話のときには、甥の末期癌の時期と重なり、看病する側の心の持ち方など、ずいぶんと教えられました。そしてホスピスの勉強をと、もう一つの世界をひろげることになりました。

また、夫婦別姓の二宮純子弁護士のお話に、今まで心の底にくすぶっていた「なぜ、女性ばかりが、結婚すると姓を変えねばならないの？」の気持ちがはっきりと問題提起され、頷くことの多いお話でした。

女性の地位向上は家庭からと、自分では分かっているつもりでも、子育てにおいては、男の子、女の子とはっきりと区別して育てたような気がします。自分の意識改革をまずしなければと、反省の機会を与えられた「みちの会」の学習会でした。

これからも皆さまの一番後ろからではありますが、取り残されないようについて行きたく思います。

会員のみんなで

会員情報コーナー

（フォーラム時の写真）

ご苦労さまでした。

・お知らせ

新年会・全体会

時　平成９年１月１１日（土）１１：００～１４：００

場所　中華「百楽」名古屋市中村区名駅第３堀内ビル　１４Ｆ

会費　５，０００円　（☎ 052-581-1511 ）

参加申し込み締切日　平成８年１２月２５日

連絡先　永井　０５２－７３２－６１３３

山本　０５２－６０１－２８８３

０５６２－３２－１８６４（夜）４時過ぎ

編集後記

１０周年のフォーラムが終わり、ほっとする間もなく、見学研修へ行って参りました。お天気も良く、紅葉もきれいで、とても充実した１日でしたが、皆さまはいかがでしたか。私は、子どもたちとかかわる仕事をしております。今年の夏の経験から。キャンプ先で書いた子ども達の日記には、あふれるばかりの感動が短い文の中につまっていました。感動は、新しいうちに書き留めるのが一番と思いました。どうぞ皆様もたくさんの感動を新鮮なうちに書き留めて、“みちの会だより”にお寄せ下さい。

次号は、「新年号」１月１１日発行の予定です。

皆様どうぞ良いお年を。

担当者一同